

## 覚醒

気絶から意識が回復するように  
ざわざわとしたノイジーな画像から解放され  
次第に輪郭を取り戻し始めた視界  
その中から浮かび上がるベッド

開け放たれた窓の外を  
通り過ぎた者  
それを目で追う  
下り坂に消えてゆくまで

魂の抜け出した腕が垂れ下がる  
その手に握られたもの  
それを引き享ける  
神話として

何気なく揺れるレースのカーテン  
忍び込む風のふうわりとしたリズム  
ひんやりとした大気を通じた薄い陽射し

おちこち  
遠近から届いてくるかすかな音たち

弧を描くようにして  
昂ぶる哀しみが熱を帯びてゆき  
次第に振幅の大きな振動となってゆく  
その中から浮き上がってくる憤怒

掌に握られた銀色のナイフから  
ねっとりとしり落ちる血液  
それが夢であれ現実であれ  
冷えきったこの意思はまだ生きている

命令者は既に逃亡してしまっている  
携帯電話には着信記録が残っている  
嬉々としたメッセージが  
「世話になったな、相棒」と

(2008.11.30)